

平成25年度 第1回 大阪府立豊中高等学校協議会 記録

日時 平成25年6月26日(水) 16:00~18:00

場所 校長室

出席者(敬称略)

大津 真作 甲南大学教授	奥井 泰伸 上野小学校校長
高原 勇巳 塾取締役社長	

事務局 校長、教頭、事務長、中井、羽柿、伊田、外山、宮野、堀田

1. 校長挨拶

2. 協議委員、事務局自己紹介

3. 本年度会長の決定

大津氏の再選が決定。

4. 協議(大津会長による進行)

(1) 本年度の学校経営計画について

○校長より学校経営計画及と学校の状況について説明

- ・選抜結果、志願状況
- ・国際社会を舞台に活躍する人材の育成
- ・進学実績が伸びてきている豊中高校
- ・豊高プレゼンテーション紹介

委員からの主な質問等

(委員) 豊高プレゼンは特別に作られたものか。

(学校) 昨年度から従来の音楽会に代わって、多様な授業の成果発表会として実施。

(委員) 京大との連携授業の場所は？

(学校) 本校視聴覚教室で実施。

(2) GLHS事業、SSH事業について

○教頭より学校説明用冊子とSSHリーフレットで説明

委員からの主な質問等

(委員) 土曜講習、質問会の参加状況はどうか。

(学校) 土曜講習は1年で約90%、3年で約80%。質問会は週2回(火、木)に午後8時まで行い、参加生徒は50名~60名。

(委員) 10校共通テストからの課題は何か。

(学校) スコアの変化(伸び)と生徒の学力の動向を比較検討する必要がある。2年次と3年次の変化の分析も必要である。

(3) グローバルリーダーの育成について

委員からの主な質問等

- (学校) 10校では、英語教育についてかなりクローズアップしている。(TOEFL)
- (委員) TOEFLは府全体で力を入れているのか。
- (学校) 府全体で力を入れている。
- (学校) リーダー育成においては、発信力や自ら考える力が求められているが、どうか。
- (委員) 理想は考える力を身につけさせたいが、効率を求めて一方的に与えがちになり、受け身にな生徒が増えている。当社での採用試験で、学力はあるが表現力が足りない学生がいる。自分のことが表現できる人間をまず養成する必要がある。
- (委員) 表現力ということ言えば、本学だけでなく各大学において、アクティブラーニングを推進している。講義そのものを工夫するが、本学では今のところ成功しているのは英語であり、学生の積極性を引き出している。
- (委員) 小学校低学年では、理科社会科にかわり気付かせる生活科を行い、主体的に考えさせる。これにより、高学年で表現力がだいぶ伸びている。
- (委員) 高校で英語のリスニングはどれほど実践されているか。
- (学校) 英語の授業時間内でも行われているし、土曜セミナーでリスニング講習、TOEFL講座も開講している。
- (委員) 塾でもこの数年積極的に取り入れている。
- (委員) リーダー育成には、まず表現力をいかに身につけさせるかだ。そのため、考える授業めざして、大学では90分の中でシンキングタイムを設定している。
- (学校) 理想は、授業で考えさせたいが、今はなかなか時間がとれない。
- (学校) 数学では説明の後、生徒に解かせるのだが、自ら問題を解かず写すことだけで考えない生徒がいる。
- (委員) 参考書の利用はどうか。以前は、自学に参考書を使ったが。
- (学校) 数学をはじめ教科で指定しているものもある。
- (委員) 国語で書かずに白紙で出す傾向は、日本が高い。
- (学校) 記述問題において、理系生徒の表現力が特に不足している。待ちの姿勢が顕著。
- (委員) 生徒の読書量は少ないのか。
- (学校) 家庭で携帯を見ている時間が多く、読書量はたいへん少ない。
- (委員) 携帯については、小学校では学校に持ってくるのを禁止している。
- (委員) 塾では、安全面で持たせ、使わせているケースが多い。
- (学校) 家庭学習ができない理由の1つに、携帯の誘惑がある。そのため、学校の自習室利用が増えている。

5. その他

- (学校) 入試における採点ミス。様々な改善や見直しがあると思われる。
- (委員) 今年ミスが多いのはたまたまか。これまでもあったのか。
- (学校) ほぼ全校が前後期入試により、受験生が増えて業務量が増大したことは間違いない。前期で3/4が不合格となり、気持ちの切り替えができない生徒のケアがたいへんだと思う。

平成25年度 第2回 大阪府立豊中高等学校協議会 記録

日時 平成25年10月31日(木) 16:00~18:00

場所 校長室

出席者(敬称略)

大津 真作 甲南大学教授	永田 武全 豊陵会会長
安威 守人 P T A会長	加堂 裕視 豊友会会長
高原 勇巳 塾取締役社長	

事務局 校長、教頭、事務長、中井、伊田、外山、上林

1 校長挨拶

2 協議(会長による進行)

(1) 学校教育自己診断結果について

◆教頭より概要説明

(生徒アンケート) ・9月に実施、質問項目については昨年度と同じ。

・全体的には大きな変化はなかった。

(保護者アンケート) ・肯定評価は全体的に伸びている。

・1,077名中666名の回答。

(教職員アンケート) ・肯定評価は伸びている。約70名中36名の回答。

◆委員からの主な質問等

(委員) 自己診断結果の数字を踏まえてどのように対応するのか。

(学校) 各分掌、学年の検討を依頼した上で、全体研修を行い、今後の対応を考える。

(委員) 「命の大切さについての学ぶ機会」について数字が下がっている。

(学校) アンケートを実施した時期によって数字が異なる。2年前の70%でも低いと考えており対応が必要。

(委員) 時期や内容は同じにすべき。そして一定基準を超えた場合に対策を行うこと。

(委員) 100%をめざすものとそうでないものに分けるべき。主観的なものは100%にはならない。

(委員) 保護者の回答率は約7割と高いが、教員の回答率が低いのはなぜか。

(学校) アンケートは生徒保護者の意見を調査するのが第一義となっている。教員についてはあまり回収率が高くない高校もある。

(委員) 回答率が低いのは良くない。大学では学部があるので競争原理が働いている。高校は組織が一つなので難しいのかも。

各学年の状況

(学校) 3年生は中心的な存在であり満足度は高い。また、入試を控えており勉強への意識は高い。

(委員) 同じ生徒の1年→2年→3年の状況は？

(学校) 目標が明確になるため、年々数字は上がってきている。

(委員) 2年生はどうか。

(学校) 生活指導面では定着しつつある。これは、1年生のときから社会的なモラルを指導して

きたことによるものと考えている。学習面では少し伸び悩みが見られる。

(学校) 1年生については、肯定評価の昨年との比較においてマイナスとなっているが、現2年生が1年生の時の数値が高かったこともある。現1年生は4月に2泊3日の合宿を行い、仲間づくりなどにもメリットがあった。7月模試でもいい結果を残している。

(委員) 1年生は制服への注文が多いが？

(学校) 制服については現3年生から始まった。2年3年については、色指定はあるものの店で購入可能。それに対し1年生は学校指定のため不満があるのかもしれない。

(委員) 携帯やスマホの画面を見ながら自転車を運転したり、携帯等をめぐって殺人事件も起きている。携帯電話やスマホの使用についてモラルやルールを教えることが重要。

(学校) モラルを学ぶ機会については情報の授業も活用する。

(2) 授業アンケートについて

◆教頭より概要説明

- ・年2回、生徒による授業アンケートを実施。質問は9項目で本年は7月に1回目を実施。
- ・本校の特徴は、突出して高いあるいは低い結果の教員がないということ。

◆委員からの主な質問等

(委員) この授業アンケートは何のために実施しているのか。

(学校) 教員の授業力向上のために行っている。

(委員) 結果は教員にも伝えるのか

(学校) 伝える。振り返りシートは教科が検討して記入する。

(学校) 体育についてはクラス合同で授業を行っているが、クラスにより評価が異なる。体育の好き嫌いで数字が異なるのではないか。数字はあくまでも参考としてとらえるべき。

(委員) 体育に限らず他の教科でも同じこと。数字は参考としてとらえるべき。

(3) その他

◆校長より説明

- ・府立高校15校程度にTOEFLコースを設けるように教育委員会からの要請がある。
クラス数は1～2クラス。そのために、SET (スーパーイングリッシュティチャー) を任期付きで雇用する。
27年度から実施予定。

次回は、平成26年1月下旬予定

平成25年度 第3回 大阪府立豊中高等学校協議会 記録

日時 平成26年2月7日(金) 15:00~16:00
場所 池田市民文化会館アゼリアホール 小会議室
出席者(敬称略)

大津 真作 甲南大学教授	永田 武全 豊陵会会長
高原 勇巳 塾取締役社長	

事務局 校長、教頭、事務長、羽柿、上林

●当日実施している「第2回豊高プレゼンテーション」(13:00開始)を見学後、協議会開催

1 校長挨拶

2 協議(大津会長による進行)

(1) 豊高プレゼンテーションについて

◆委員からの主な意見、質問等

(委員) 古典の群読素晴らしかった。

(委員) 手作り感があり、興味深く拝見した。

(委員) 出演するのは、どのように選んでいるのか。

(学校) それぞれの授業などで優秀なグループを選んでいる。

(委員) 英国語学研修の応募人数はどの程度か。

(学校) 昨年と今年は約30名ほどだった。来年度はTOEFLコースの設置を考えている。(委員) 豊中高校がダンスや吹奏楽で有名になっていくのはいいこと。豊高プレゼンテーションは大変勉強になった。豊中高校は勉強だけじゃないことをもっと一般の方にも広めてもらいたい。

(学校) 来年度は、1日開催を検討している。

(2) 授業アンケート結果について

◆教頭より概要説明

◆委員からの主な意見、質問等

(委員) アンケート結果を評価するため、前年度と比較する必要がある。このため、アンケート項目については変えないほうが良い。

(3) 1年間のまとめ、提言(グローバルリーダーのあり方について)

(学校) 世界で活躍する人を育てる教育課程を実施しているが、外部から見ていただいてどうなのか。また、「グローバルリーダーとは」について提言をお願いしたい。

(委員) GLHSになってからの卒業生の進路については今年わかるのか?

(学校) 途中経過であるが、センター入試も終わり2次に向けてがんばっている時期。志望校については京大が増え、東大や東工大、一橋大等これまでなかった大学も出てきた。

(委員) 志が高くなっているが、何か変化したところはあるのか。

(学校) 阪大、神戸大が中心だが、自分がやりたいところを選択する生徒が増えた。阪大との交流の機会が増えたこともあり、目的意識を強く持つようになってきた。

- (委員) 目的意識を持つ生徒を育てるためには高校時代に大学訪問の機会を持つことが大事。
- (委員) 東大をめざす生徒には、受験科目と授業科目を合わす必要がある。
- (学校) 毎年、生徒目線で見直しを行っており、補習対応などそこは取りこぼしのないようにしている。
- (委員) 文理学科については、あまり部活動はしていないのか？
- (学校) そんなことはない。活動状況は普通科と変わらない。
- (委員) 文理学科と普通科との間に溝みたいなものはあるのか。
- (学校) カリキュラムも大きな差はなく、仲もいい。溝はないと思っている。
- (委員) G L H S で英語に特別な教師をつけたりしているのか。
- (学校) 文理学科にしたときにカリキュラムは変更したが特別な教員はつけていない。
平成 27 年度からは T O E F L コースが 10 校にも課せられることとなるため、来年度から先行実施したいと考えている。何とか英語でディスカッションできるレベルまでもっていきたい。
- (委員) 生徒の選別はどうするのか。
- (学校) 生徒の希望を優先し、2 クラス 80 名程度を考えている。
- (委員) 指導する教師の確保が難しいのではないのか。
- (学校) S E T (スーパーイングリッシュティチャー) を雇うことになる。教育委員会で募集しているところ。
- (委員) 現在、O B で職業別進路講演会を行っている。今後は、東大、京大など大学生の O B に来てもらい、「こんな勉強をした。」などの話をしてもらったらどうか。
- (学校) これまで、教育実習生に話をしてもらったことはあるが、やはり現役大学生の話には生徒も興味がある。
- (委員) 海外の大学を受ける方向にはなっているのか。実績のある高校は？
- (学校) 大阪では、国際教養科や国際文化科のある学校では少しいるが、G L H S 校では非常に少ない。関東の高校は、海外の大学にも視野を広げた進路指導も行っている。
- (委員) 英語は実用性重視の方向に持っていきたい。受験英語と実用英語の併用で大変だが。
- (委員) 推薦入学の状況はどうか。
- (学校) 推薦入学はあまり多くない。早稲田・慶応も応募がなかった。推薦基準の評定が高いので、こうした生徒は国公立大学を受験している。
- (委員) 目的意識を持たせるような交流を行っていくことが大事である。しかし、国公立大学のハードルはまだまだ高い。
- (学校) センター試験だけでなく課題研究の成果を反映させている大学もあるが微々たるものである。しかし、そこが進まないと高校改革はできないと思う。

●協議終了後、豊高プレゼンテーションを見学。